

地域にあるものを活かして、認知症になってからも、
災害時も、安心して自分らしく生きられる町をともに築く

○甲佐町の認知症施策における連携事業について

熊本県 甲佐町役場福祉課（地域包括支援センター） 古閑 裕子

○災害時も認知症の人と共に生きて…

地域の中で、認知症になっても、自分らしく生きられる町づくりを

熊本県甲佐町 有限会社せせらぎ（地域密着型サービス）高橋 恵子
熊本県 認知症介護指導者

甲佐町の紹介

甲佐町は、熊本県のほぼ中央に位置し、南北に清流の一級河川である「緑川」が流れる自然豊かな町です。
【面積】57.93km²

清らかな一級河川「緑川」



川の上に建つ「鮎のやな場」



国指定天然記念物
「きんもくせい」



甲 佐 町

人口：10,156人

65歳以上の人口：4,072人

前期高齢者数：1,735人

後期高齢者数：2,337人

高齢化率：40.1%

世帯数：4,454世帯数

行政区：50行政区

生活圏域：5地区

地域包括支援センター（直営） 1

認知症地域支援推進員 1 （行政・包括の主任介護支援専門員が兼務）

（令和5年11月30日現在）

現在、甲佐町高齢者福祉計画 第9期介護保険事業
計画を作成中です。

甲佐町高齢者福祉計画 第8期介護保険事業計画
(2021から2023)

【 目指す姿 】

「高齢者が活力にあふれ地域の支えあいで安心、安全、
健康に暮らせるまち」

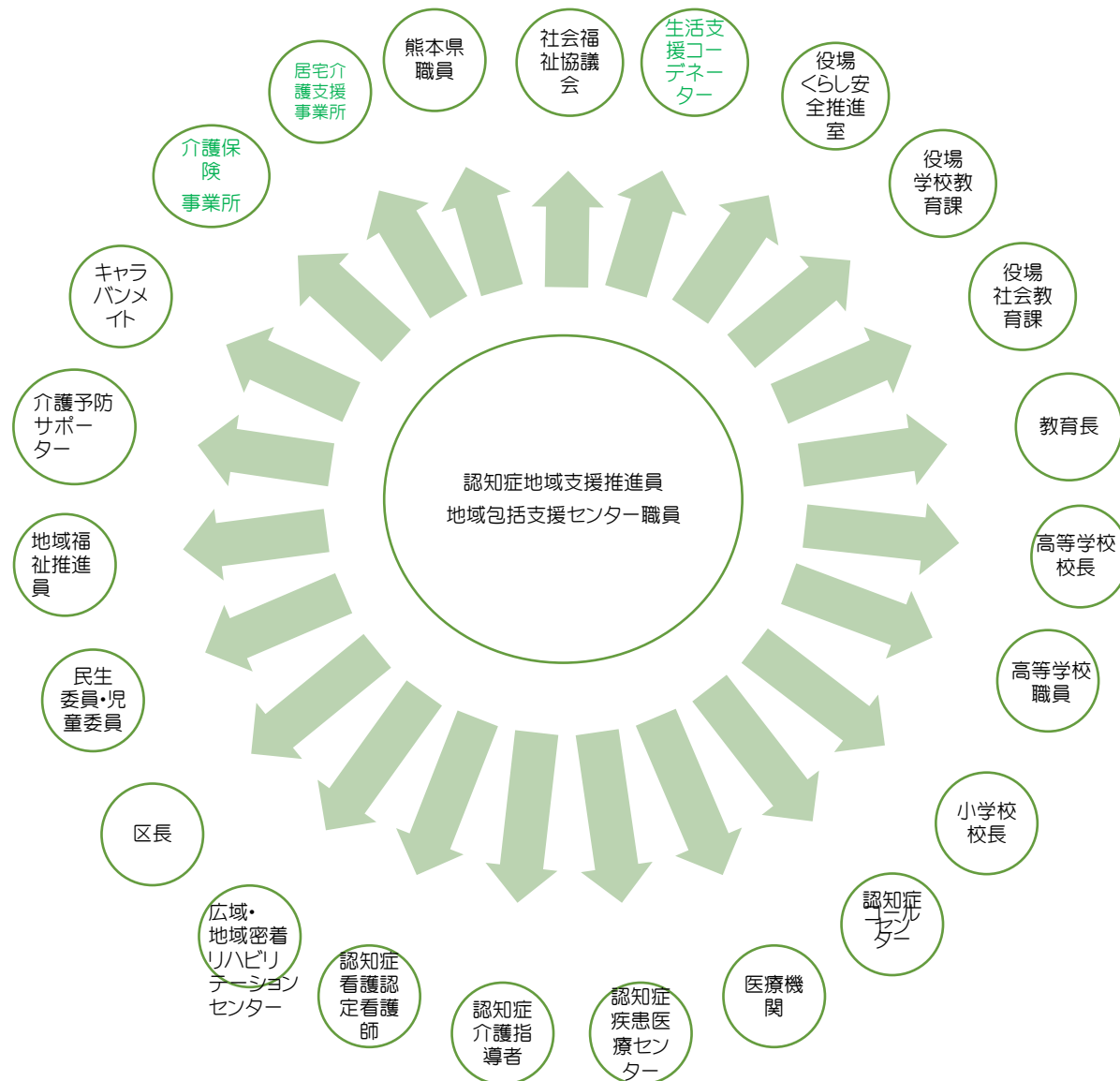
(第7期計画を引き継いでいます。)

甲佐町における認知症に関する取り組み

～認知症になっても地域で暮らすことのできる体制づくり～

	事業	事業概要
地域住民	<ul style="list-style-type: none">①広報掲載②オレンジ通信③オレンジカフェ④認知症サポーター養成講座⑤ステップアップ教室⑥介護予防サポーター養成講座	<ul style="list-style-type: none">①認知症に関する情報提供②年10回全戸配布（熊本県認知症介護指導者による執筆）③町内2か所開設④高校生、小学生、地域住民を対象⑤認知症サポーター養成講座を受講された方を対象⑥8回を通して介護予防について学び、地域で実践することのできる住民を育成。認知症に関する講座がある。
当事者 家族	<ul style="list-style-type: none">①オレンジカフェ②認知症相談会③認知症家族の集い④初期集中支援チーム⑤介護保険及び総合事業サービス	<ul style="list-style-type: none">①町内2か所開設（令和5年12月1日現在 休止中）②認知症に関する各種相談受付 認知症疾患医療センターから職員派遣 毎月第3週水曜の1回開催③甲佐町役場内で認知症の家族が集う場の開催 年間6回隔月開催（現在、活動なし）④認知症の早期介入を図ることを目的として設置⑤総合事業（一般介護予防事業…地域の集い〈50行政区中35行政区〉）

一つ一つの事業 の中での関わり



☆ 普段からの顔の見える関係づくり

☆ 理解者を増やし、理解者ととともにすすめる

☆ 目的 目標の共有化(気持ちの共有も!)

連携事業の紹介

甲佐町オレンジ通信

平成27年度から「甲佐町オレンジ通信」を作成（A4の大きさ両面）、年に10回 全戸配布をしています。
現在9年目を迎えています。
先日、通巻第88号を発行しています。

認知症サポーター養成講座

平成21年から実施しています。

ステップアップ教室

令和4年度に実施しました。

甲佐町オレンジカフェ連絡会

平成29年9月から開始しました。

○平成29年7月、8月
関係者の打ち合わせ会議

ご主人と自分のためになると思い、
自宅を開放して地域のために使いたい。立ち上げに関わるKさんの思いを伺う。

「甲佐町オレンジカフェ連絡会」と名付ける

○平成29年9月
Kさんの自宅を開放し、月1回のオレンジカフェを開催
町で作成したチラシを住民に回覧し周知を図る

○平成30年2月
甲佐町とともにつくる認知症カフェ研修会の開催

平成30年4月から

○平成30年4月

関係者の打ち合わせ会議

メンバー：Kさんご夫婦、甲佐オレンジカフェ連絡会スタッフ、地域包括支援センター職員

その後・・・

・Kさんのご主人の体調不良もあり、今後の認知症カフェは、周知することも目的に、Kさんのご自宅以外に出張カフェとして、地域の公民館の活用を図りました。



○平成30年10月

甲佐町ともにつくる認知症にやさしい町づくり研修会の開催

(甲佐町オレンジカフェ連絡会主催 後援として甲佐町)

平成31年4月から

巡回型カフェとして、月に1回地域の公民館の活用を図りました。

○令和元年11月9日

地域で支えよう！みんなで認知症カフェ大会

(上益城介護保険事業者協議会・甲佐町オレンジカフェ連絡会主催
後援として甲佐町)

イベント1 講演

認知症の人を地域で支えよう

認知症の人の気持ちになって、認知症の人と一緒に探そう

講師 社団法人セーフティネットリンケージ

代表理事 高原達也 氏

イベント2 ラン伴ゴールイベント

令和2年度以降、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、いろいろな地域の集まりがなくなってきました。

認知症の方を支える「オレンジカフェ（認知症カフェ）」も残念ながら開催中止となりました。

その中で、令和2年7月に「甲佐町オレンジカフェ通信」のチラシを作成して、各行政区に配布し回覧してもらいました。

内容は、夏場のマスク着用の中での「熱中症対策について」（A3サイズ両面）でした。

(その後)

令和4年11月と令和5年2月にチームオレンジのためのステップアップ研修「認知症と健康を考える学習会」を甲佐町の地域福祉推進員（希望者）や地域密着型サービスの方などを対象に開催しています。

平成28年4月の熊本地震（甲佐町は震度5弱）や6月の豪雨災害により、多くの町民の皆様が被災された経験があります。

また、新型コロナウイルス感染症の流行などの影響により、認知症の取り組みのみならず、介護予防全般においても課題をかかえながらの活動となっています。

そうした中、普段から多くの認知症に関する関係者と連携していることが、取り組みへの原動力になっていると感じています。

顔の見える関係を育てながら
この町のために、ともに

甲佐町行政・地域包括支援センター
認知症地域支援推進員

地域密着型サービス
/認知症介護指導者

報告をバトンタッチ！



災害時も認知症の人と共に生きて…

地域の中で、認知症になっても、自分らしく生きられる町づくりを



令和5年度 認知症地域支援体制推進全国合同セミナー

～認知症とともに希望をもって暮らす地域共生に向けた地域支援体制を築いていくために～

有限会社せせらぎ 高橋恵子 (熊本県認知症介護指導者)

自己紹介

昭和40年生まれ水瓶座B型、子供は3人とも成人し、夫はパーキンソン、です。普段は、介護、ケアプラン、地域活動と大忙しです。



グループホームせせらぎ（白旗地区）
小規模多機能ホームほたる（竜野地区）



自然観察指導員
東北福祉大福祉心理学科（通信制大学院）
認知症介護指導者
小規模ケアアドバイザー
介護労働安定センター（ストレスケア担当）
日本認知症グループホーム協会熊本県支部長
熊本県地域密着型サービス連絡会副会長
日本ホスピス・在宅ケア研究会 理事



お話しすること（予定）

- 1) 認知症介護指導者になるまで、また、なってからのジレンマ
- 2) 甲佐町の中で、何を大事にし、どんな工夫をしながら取り組んでこられたか
- 3) 取りくんできた中で少しずつ生まれてきている成果やエピソード
- 4) 甲佐町の未来に向けて、やってみたいこと

介護現場と災害

地震と津波 災害支援で岩手の典人会に学ぶ
デイサービスの跡地 災害を目の前にして
2011年（平成23年）3月11日



岩手で聞いた様々な課題 災害時、認知症などの障害を抱えた人を どう支えるか？

- ▶ 徘徊してなくなった認知症高齢者
- ▶ 避難所でゆっくりできない状況と
周囲の認知症に対する不理解
- ▶ 避難所になった介護事業所
- ▶ うまく避難できなかった認知症高
齢者とその家族
- ▶ 家族を亡くした認知症の人



地域密着型サービスの活動の概要

熊本県小規模多機能ホームほたる

小規模多機能居宅介護（介護保険）
（訪問・通い・泊まり）

ふれあいホーム（GH・小規模自主事業）
（主に虚弱高齢者の通い・泊まり）

配食サービス
（地域生活支援としての安否確認）

地域交流活動
（認知症カフェ・整体・交流行事等）
行政と協力してオレンジ通信の発行
オレンジチームの育成（今年度より）

※地域社会資源の活用



配食のさまざまなエピソード

- 配食時、自室で倒れていた独居高齢者を区長・家族と連携して病院へ。
- 独居高齢者が薬のアルミ箔を誤飲していて、病院受診に同行した。
- 配食時、自宅に不在の為、探すと橋の中央で座り込んでいた。
- 自宅へお連れし、ケアマネや家族へ報告。
- 過疎高齢化の進んだ山間部の高齢夫婦世帯。妻が骨折入院中、認知症の夫は一人暮らしに。夫は月1, 2回の病院受診で、町に下りる以外は、買物や料理の習慣がなく、配食を利用。
- 買い物困難な利用者宅への配食
- 透析後、疲れて料理ができない方へ栄養バランスの良い食事提供
- 鍋焦がしで部屋中、煙が充満しているのを発見。火事を防げた方も

運営推進会議でネットワークをつくり、事例を検討したり、地域防災を一緒に考える。



事例1 農村部のグループホームにて

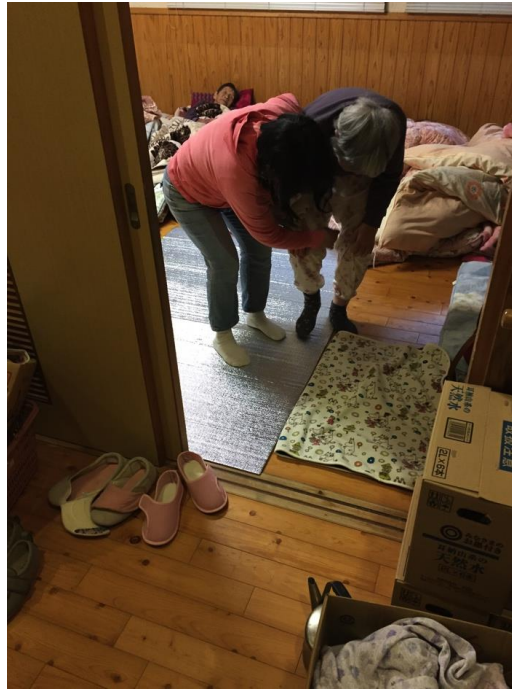
グループホームにおける減災対策
地域で防災を考えるワークシート

事前の準備)防災訓練について	事前の準備)避難先はあるか？	事前準備)準備物や備蓄の準備はあるか？
<p>(行っている) 連絡体制の確保 火災時の避難訓練 (行っていない) 夜間の避難訓練 様々な災害を想定したもの 地元住民との連携</p>	<p>近所のロータリー 火災 地区の集会所 水害 同じ法人の宅老所 他法人の老健施設 水害 小学校の体育館 町のふれあいセンター</p>	<p>防災マニュアル 作成中 貯水タンク 防災井戸 ラジオ 防寒具 ロウソク ライター アルミカマド 鍋 薪 調味料各種 片栗粉 食材の備蓄 季節の保存食 畑の野菜 おむつ類</p>
地域の地形や過去の災害について	どのような災害が起きる可能性があるか？	地域との連携、地域の防災意識について
<p>(土砂災害) 美里町で土砂災害あり ハザードマップあり (水害) 緑川河川の氾濫 (地震) 震度5程度 日奈久活断層あり</p>	<p>地震(活断層あり) 火災 河川の氾濫(一級河川あり) 大雨 土砂災害 風水害(台風など) 阿蘇山の噴火 落雷</p>	<p>地域見守り隊で、安否確認している 町の暮らし安全対策課との連携 隣の地区の自主防災組織 自分たちも防災考えたい(同地区区長) 消防団が減ったので心配 昼間や夜間はどうしたらいいのか 熊本ぼうさい塾と一緒に参加する 運営推進会議で話し合い続ける</p>
避難先の暮らしについて	行政との連携について	医療や他の介護サービスとの連携について
<p>炊き出しへの協力 食材の提供 寝具の準備 排泄ケアの環境確保 福祉避難所への移動 一般避難所での暮らし方の工夫 避難所で認知症の人が困らないように (DCネット 永田氏作成のマニュアル参照)</p>	<p>町の暮らし安全対策課と連携をはかる 町の防災関係の会議に可能なら参加する 町の防災計画も知っておきたい (主に災害時の町行政職員の動き) 要援護者対策について福祉課に聞く 町のホームページに要援護者対策は掲載中 防災無線の確認 消防署 警察署との連携</p>	<p>地域のグループホームと防災につて話し合う 地域の医療機関にお願いしておく 地域の大型施設と連携しておく 災害時要援護者等地域支えあい体制づくり (町の事業に協力する) 緊急時の医療連携と記録物 利用者の状況や内服を一冊にまとめておく</p>



2016年4月14-16日
熊本地震、あの日から
熊本地震で、認知症の人と私たちは、どう生きたのか？

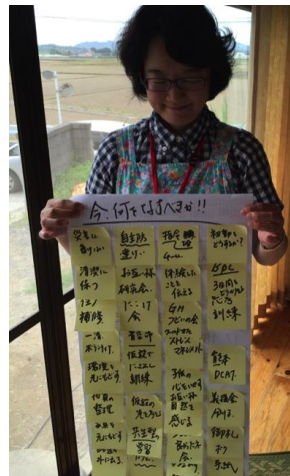
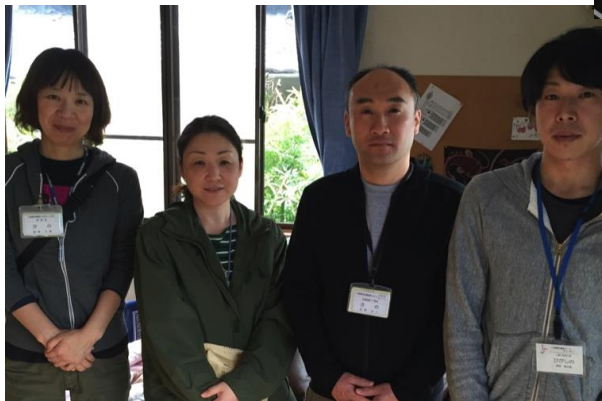
グループホームせせらぎ（白旗） 緊急避難からホームへ



熊本地震より、地域住民と共に福祉ふれあいセンターに避難、
グループホームの状況を確認しながら、22日避難所からグループホームへ、
21日深夜、日本認知症グループホーム協会DCAT(新潟支部チーム)到着。
22日より実働、先遣隊支援活動開始。

DCATの有効性

1週間単位・車で物資を積んで



23日～28日 グループホームから地域支援活動へ



DCATの支援を受けながら地域の実情に目を向けつつ、
地域の支援活動と介護現場の事業継続に向けて活動開始。
高橋は、上益城地区を主に巡ることに

災害時 最低限の健康をどう維持するか？

- ▶ 睡眠の改善
- ▶ 運動の維持
- ▶ 血栓予防
- ▶ 良質な食事
- ▶ 体重の維持
- ▶ 感染症の予防
- ▶ 血圧の管理
- ▶ メンタルヘルス



防災・減災・緊急避難や健康維持:災害対策は日頃のケアにもつながる。

震災後半年、上益城の現状から まだまだ、支援が必要だった



仮設住宅から通うスタッフも。
地域の農家の方は納屋に住んでいるひ
とも。

熊本地震で家を失った人、認知症状が重くなった人も多い。
今こそ、地域の中での認知症グループホーム

- ▶ 具体的に何を行っていくのか？
在宅生活継続のための相談・支援、短期利用
認知症対応型共同生活介護（事業継続）
共用型認知症対応型通所介護
認知症カフェ
その他（地域の実情に合わせた柔軟な活動）
- ▶ 地域包括ケアシステムや循環型の仕組みの中での位置付け・役割は？
地域共生ケアの拠点へ

町の保健師さんたちとの出会い

(町の福祉課認知症地域支援推進員・地域包括支援センター保健師として)

- ▶ 保健師のことは知ってはいたが、一緒に活動することは少なかった。
- ▶ 私たちが自身の家屋の整理や地域支援で忙しい中、ヘルパースタッフから、熊本地震以降、町の保健師さんたちとゴミ屋敷の清掃に入っていることを聞いた。中には、認知症の方もいるらしい。
- ▶ 避難所では、福祉課の行政職員さんと組んで、避難所の管理を手伝った。町行政の人たちの苦労も見えてきた。その頃、保健師さんから、認知症の人を地域で支える活動を考えていると聞く。学校や公民館などで、認知症サポーター養成講座、町の皆さんに呼びかけて、認知症の公開講座の企画が年に2回ほど。認知症に関連したオレンジ通信の発行など始まる。
- ▶ 認知症カフェは、一時期、被災者のための避難所カフェに。その後、地域の古民家や公民館などでも開催再開し、サポートに来てもらえる。
- ▶ この頃、財源は、朝日新聞厚生文化事業団「ともにつくる認知症カフェ」助成事業を活用（助成金を進めてくれたのも町の保健師さん）。高橋は、短時間で目的に合わせた文章作りがモットー！（東京センターや東北福祉大の課題作成で鍛えました）力を合わせるとすごくマッチした！

認知症の人を支えるということは、 地域で支え合う町づくり

甲佐町のこころの復興を願って、地域の皆さんとの絆を紡ぎます！

認知症の人、地域住民、認知症サポーター、専門職、行政（地域包括支援センター）が、地域の拠点に集まり、認知症の人が暮らしやすい社会を考えていくことが何より大切だと考えています。今年度は特に甲佐オレンジカフェを開催しながら、仲間を増やし、認知症の人をサポートできるオレンジカフェ・ボランティアの育成に力を注いでいこうと思います。



私たち、オレンジカフェボランティアのミッション

- ▶ 認知症のことや認知症の人の気持ちを知ってもらおう
- ▶ 認知症初期の人たちを地域で自然に支える活動を
- ▶ 認友活動や認知症カフェ活動の機会を増やす
- ▶ 楽しく学び、自然に支え合うことのできる甲佐町を
- ▶ 認知症の予防、進行防止を、楽しく、一緒に考える
- ▶ 差別のない社会を

甲佐オレンジカフェの活動①

認知症の人を支える

認知症サポーター養成講座の開催

- ▶ 乙女小学校の放課後、まつやま塾にて
- ▶ 認知症の理解・家族の理解のお話の後に、これから自分たちは、認知症の人とどのように関わるか、話し合ってもらいました。
- ▶ おばあちゃん達に優しくしたい。
- ▶ 認知症の人がいたら、地域の人を呼んで、一緒に声をかけよう。など、優しい意見が聞かれました。



②古民家カフェの様子（写真は、平成30年度）

- ▶ 4月当初、古民家カフェで話し合いましたが、古民家カフェのオーナーより、ご家族の体調が良くないので、しばらく難しいとお話があり、たつのふれあいセンターやふれあいホームほたる、芝原公民館など、地域の方々が参加しやすい場所を探して、月に一回程度の巡回型オレンジカフェを開催することにしました。



ふれあいホームほたるにて

5月

コーヒータイム・自己紹介ゲーム

認知症予防の話（リコード法）

食べた方がよいもの・控えた方がよいもの

漢字ドリル・呼吸法

合唱：夏の思い出



6月

笑いヨガ呼吸法紹介

味噌ダゴ作りと回想法

認知症の方も含めて和やかな感じ、楽しく、話になって行く。

終了後、民生委員さんと認知症介護予防について個別相談



甲佐町は自然の宝庫



ふれあいホーム活動として、認知症の方とふれあい自然塾

10月

子供達は午前中、認知症の勉強と簡単なふれあいかたのお勉強！その後、ドングリや秋のタネの観察

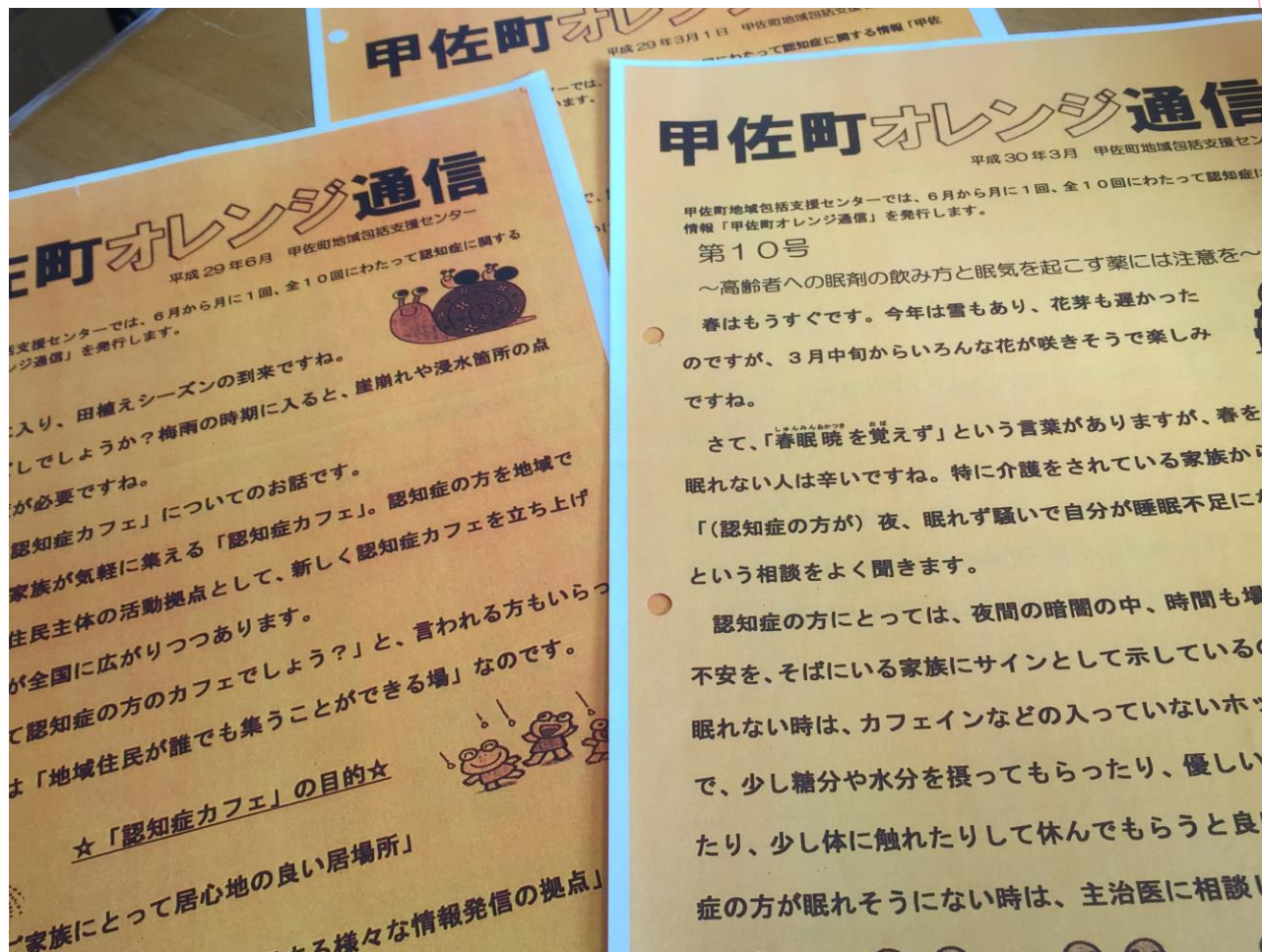


午後からは、おばあちゃん達と一緒にクラフト体験
いつの間にかそこにいることが普通に。



全国にいる自然観察指導員！指導員の経験も豊富で、クラフト体験は、認知症の人向けに簡単にできるものも準備してあった。

③甲佐町オレンジ通信はコロナ期間も継続



地域のみなさんへお願い

- ▶ オレンジカフェボランティア活動に参加しませんか？
- ▶ お話を聞いて、一緒に勉強して。
- ▶ お茶を入れて、認知症の人にさりげなく話しかけて。
- ▶ 楽しく、大笑いして。
- ▶ お茶とお菓子をいただきながら。
- ▶ ちょっと片付け手伝って。
- ▶ さりげなく近所の人に声かけて、車のない人と一緒にきませんか？



オレンジ通信 令和5年4月号 お花見編

梅が咲きおわり、桜が咲き始めましたね。メジロの姿が見えたり、ウグイスの声も聞こえてきたでしょうか？甲佐町は本当に自然豊かです。散歩も楽しくできますね。

認知症の予防は、週に2から3回、軽く汗を掻くような運動をすることが、良いと言われています。そろそろ、地域のサロンも再開できそうで良かったですね。

甲佐町は、自然もですが、認知症の人を支える社会資源も多い豊かな福祉の町です。若い頃、甲佐町をでた方や、それ以外の方も、中高年で、甲佐町に移住して下さることもあるかと思えます。地域には、甲佐町の福祉を支える人たちがいます。ご安心ください。

それでも、まだ友人知人が少ないという方もあるかもしれませんね。歳をとって話し相手が少ないことは、認知症の予防や進行防止には逆効果なんです。それだけ、人とお話しすることは、とても大切なんです。まもなく地域で、お花見が再開されるでしょう。野外の風に吹かれながら、お弁当食べて、少し面倒ですがマスクをつけて、お話しするのは良いですね。それでも、皆さんが考えるよりずっと大切かもしれません。地域のつながりを取り戻して行きましょう。そんなとき、認知症の初期症状がある方にも、優しく、話しかけて、誘って欲しいと思います。

景色も心も美しい甲佐町のお花見を楽しみましょう。

農村の豊かさと福祉を学ぶふるさと自然塾について

実施主体・事務局：ふれあいホームほたる（くまもと地域の縁側事業）

活動事業名：平成29年度 農福連携事業 自然体験塾 えっさほいさ甲佐（多年齢交流）、平成30年度 地域共生事業 ふれあい自然塾（ふれあいホームを中心に）、平成31年度は、より、農村の豊かさを知り、県内外に発信できるように、復興の支援活動を行う。

自然塾の目的）

多年齢交流として、小規模多機能ホームや地域の高齢者とふれあい、ふるさとを大切に作る心を育てる。地域の小中学生を対象にして、甲佐町の農山村における豊かな自然と生物多様性や農村の歴史を学ぶ。農業体験では、農作物の大切さや農業について学ぶ。子ども食堂では、地元でとれた食材を知り、楽しく交流しながらいただく。

熊本の自然（甲佐町を中心とした農山村）の豊かさを再認識し、県内外に知らせる活動を行う。

事務局：電話 096-235-3755 甲佐町上早川22-1

花の三好亭（1000坪の花のガーデンウォーク）





自然観察 熊本夢かるた

甲佐町・阿蘇・高森の自然と遊ぼう！

2019年度 地域づくり夢チャレンジ推進補助事業



私たちは、熊本県内で、子どもたちや障がいを抱えた高齢者の皆さんとふれあい観察会を行なっています。熊本地震でストレスを感じた時は、自然を眺めるようにしてきました。

私たちの観察会の拠点は、甲佐町の農山村のふれあいホームほたるです。

甲佐町の龍野地区では、野山や畦道、小川で様々な動植物に出会っています。また今回、カメラを持参して、町の素敵な自然を写して回る中で、これを知らないなんて、勿体無いと思う素敵な場所に会いました。

また、甲佐町から益城町を越えて、外輪山から阿蘇を望むと景色が変わり、高山植物が見られます。私たちの甲佐町には、緑川がありますが、この阿蘇を取り巻く水系の一つでもあるのです。

まずは、共に地元の農山村を歩いてみるようになるたを楽しんでください。

そうして思い出してみませんか？

みなさんの自然と遊ぶ少年少女のような心を。歩けなくなつた年寄りにもお写真で楽しんでいただけますように。

機会があれば、甲佐町の農山村でお待ちしています。みなさまの夢も叶いますように。

農村の豊かさと福祉を学ぶ

ふるさと自然塾



自然観察 熊本夢かるた

甲佐町・阿蘇・高森の自然と遊ぼう！



2019年度 地域づくり夢チャレンジ推進補助事業
制作：農村の豊かさと福祉を学ぶふるさと自然塾



よかけん、甲佐町にいつぺん来てみなっせ！



あ

鮎やな
情緒豊かな茅葺き屋根のあずま屋で味わう鮎(アユ)料理は、また格別です。新鮮な鮎の刺身に、食欲をそそる鮎の塩焼き、そして大人の味の鮎のうるかなど、ぜひ一度ご賞味ください。毎年6月1日から11月30日まで、やな場は甲佐ならではの味覚を楽しむ人でにぎわいます。

住所:甲佐町大字豊内19-1

電話番号:096-234-0125

企画者・主催者として行政と連携

令和4年度熊本県地域福祉総合支援事業補助事業
認知症と健康を考える研修会
認知症の予防と地域共生の考え方



甲佐町オレンジカフェ連絡会チームオレンジの学習活動として

地域福祉推進委員さんと 身近なサポートの例を考える

チームオレンジの前身として、ヒントは地域の中にある！

田舎らしい実際の地域の見守りの例)

隣は一人暮らし、電気が消えたりついたり、新聞取ったかどうかなどを、自然に確認している。

今日は、ゴミ出し、軽度の認知症があり、腰が曲がった方のゴミ出しをみんなで声掛けあって手伝っている。

新しい漬物ができた時は、少し袋に入れて、様子見がてらお裾分けに。

カラオケやグランドゴルフ、認知症があるけど、地域の人が声かけて、誘い合ってくる。

コーラスやサロン、行きたいけど、足が弱くなった。一緒に車に乗せてくれる。

毎日3時になると、認知症の人が、お茶を飲みにくる。話し相手になっている。

災害時、声かけて連れて行く人を決めて、月に数回、様子を見に行っている。

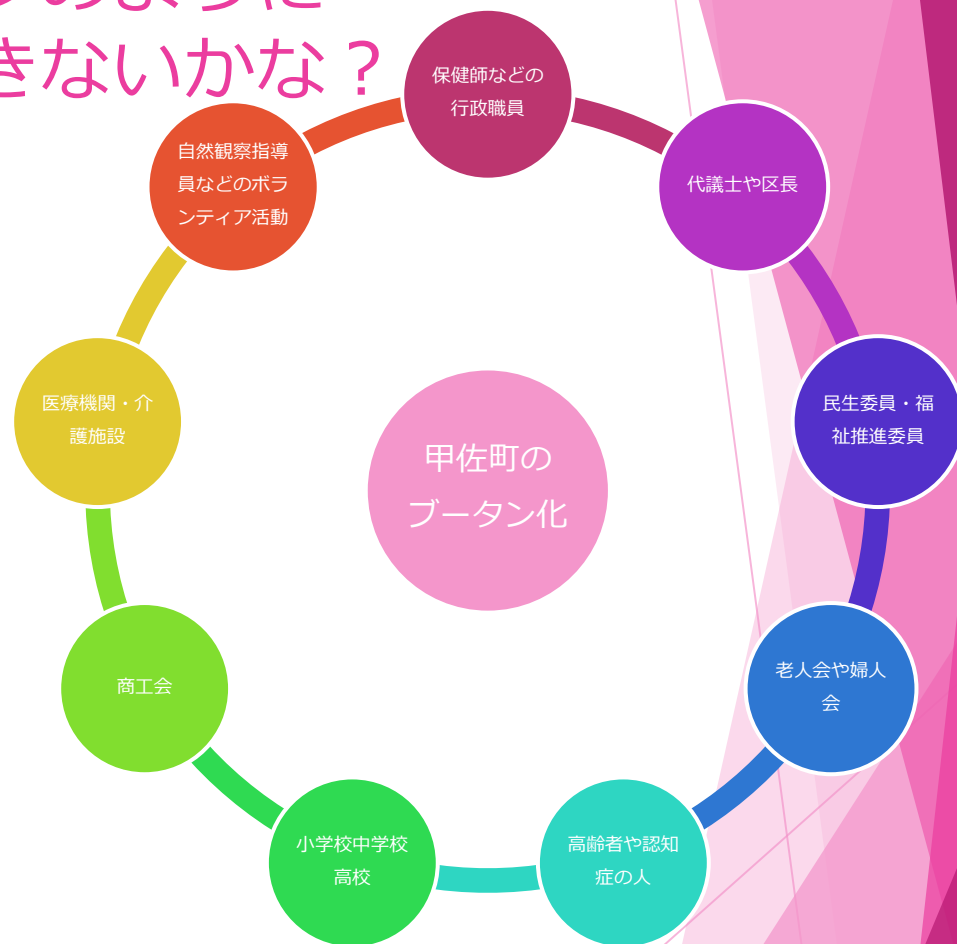
※ポイントは、チームを作って共に支え合うこと、一人で支援を抱え込まないこと

世界一幸せな国ブータンのように 甲佐町を幸せな町にできないかな？

認知症の人だけで幸せになるとは考えにくい。

地域の人と活動することで、広く、障害や病気を抱えた人と交流してもらい、その周辺にいる家族や介護職の思いも知ってもらい、静かであたたかいサポートを知ってもらうこと。
また、そのことが支援した人の見識を広げ、より柔軟で強い人間力を高め、幸福度の高い地域づくりにつながる。

また、新しい概念として認知症の人本人にも地域を変える力があることを知ってもらいたい。



認知症の人とその周囲にいる人も、大人も子供も、また、死に至るまで、幸福感のある人生を

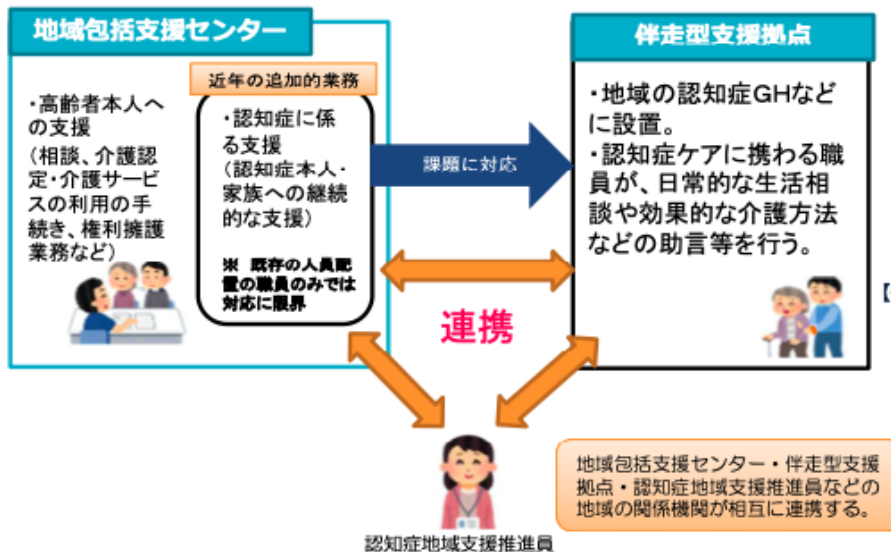
認知症本人や家族に対する伴走型支援拠点の整備の推進

(令和4年度予算) 5.5億円の内数

- ◆ 高齢者支援に関するニーズが多様化・複雑化する中で、本人に専門的な助言を行うとともに、家族の負担軽減により介護離職防止にも資するような支援を行うことが重要。
- ◆ このため令和3年度より、地域包括支援センターによる従来からの対応に加えて、認知症対応型グループホームなど地域の既存資源を活用して、①本人の生きがいにつながるような支援や専門職ならではの日常生活上の工夫等の助言、②家族の精神的・身体的負担軽減につながるような効果的な介護方法や介護に対する不安解消に係る助言などを継続的に行う「伴走型の支援拠点」を市町村が整備する事業を実施。

【予算項目】(項)介護保険制度運営推進費 (目)介護保険事業費補助金 (認知症総合戦略推進事業) 【実施主体】市町村 【補助率】1/2

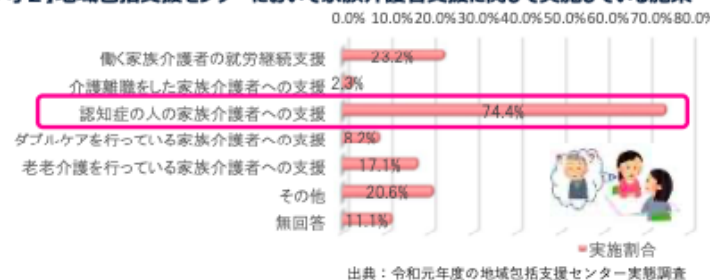
【事業実施イメージ】



【参考1】拠点となり得る地域の既存資源の数 (該当サービスの請求事業所数)



【参考2】地域包括支援センターにおいて家族介護者支援に関して実施している施策



※ 1か所当たり1,520千円(事業費ベース)を想定。(国1/2、市町村1/2)

伴走型相談支援マニュアルについて

伴走型相談支援マニュアル～認知症高齢者グループホームで「認知症伴走型支援事業」に取り組むために～



- 認知症の人や家族への継続的な支援について、よりきめ細かに対応し、介護者の負担軽減につながるよう、本人や家族に対して日常的・継続的な支援を提供するための拠点を整備する『認知症伴走型支援事業』を令和3年度予算において創設。
 - 公益社団法人日本認知症グループホーム協会では、令和2年度老人保健健康増進等事業において、事業実施に当たっての**手引書を作成**。
 - 本手引書は、**認知症高齢者グループホームのみならず、そのほかのサービスについても参考とすることが出来る内容**となっている。
- ▼
- 自治体等へ周知し、認知症伴走型支援事業を推進

※令和2年度老人保健健康増進等事業

地域における認知症ケアの拠点としての認知症高齢者グループホームでの適切な相談支援に関する調査研究事業（公益社団法人日本認知症グループホーム協会）

市町村の方々へ

現場は、人がいないから、忙しいから、コロナだから、手伝えないのではない。柔軟にできることをやれば良い。

- ▶ 地域の中に想いがある人たちは必ずいる。ただ、どうつながればいいのかわからない。忙しくても、「これだけは、今やろう」という意識があるかどうかが大切。
- ▶ 熊本にも限界集落と呼ばれる町や村があり、地域密着型サービスであるグループホームの閉鎖が続いているが、勿体無い。
- ▶ グループホームも地域の資源である。小規模で運営は難しいが、家庭的なサイズで、家族介護に近いやりとりができる。在宅のケアモデルが作りやすい。地域の中にあり、地域の中でないと運営できない。**つまり地域と共にある。**
- ▶ 地域密着型サービスの運営推進会議を活用してほしい。いつ頃、こんなことをやりたいという計画を示してほしい。
- ▶ 地域のボランティア（有償・無償に限らず）がホームに必要。ホームに来てくれるだけでも認知症介護の勉強になる。（認知症介護基礎研修を受けた70代80代の有償ボランティア）外国人も交流に必ず役立つ。そこから、連携できる人材を地域に出していける。

地域の中にある社会資源
人・場所・物も、
つなげれば地域社会資源



是非、お近くの認知症介護指導者にお気軽に声をおかけください！

ご清聴
ありがとうございました

